



Chapter VI

結論

Conclusion

研究概要

研究概要

- 研究目的:「東学(東學)」概念を中心に、両思想が天観・地観・人間観の再構成を通じて東アジアの自生的近代性を構築したことを立証
- 研究背景:東学農民運動はフランス大革命に匹敵する近代的運動として再評価されており、大巡思想は東洋の伝統的思惟体系として近代以降の世界変化を説明しうる思想として注目される
- 研究の問い:
 - 1) 両思想はいかに東アジアの自生的近代性を構築したか?
 - 2) 天観・地観・人間観は両思想でどのように再構成されたか?
 - 3) 相関的思惟とリミナリティの観点から見た両思想の特性とは何か?

核心論議要約

核心論議要約

- 東学農民運動の再評価: フランス大革命に匹敵する近代的運動としての価値
 - 東学思想と大巡思想が構築した東アジアの自生的近代性の歴史的意義
- 危機に瀕した西洋近代性の代案: 東学思想と大巡思想の天観・地観・人間観
 - 万物の変化を实体として見る西洋の内在性vs. 属性として説明する東洋の相関的思惟
- 相関的思惟のリミナリティ: 両思想の核心的特性
 - リミナリティ(境界性): 対立する二要素を包含して調和する東洋思惟のカオスの動的性
 - 相関的思惟: 万物が相互連結されたフラクタル的静態性
- 天地人三界観: 東西近代性を統合する自生的近代性の構築
 - 東学思想と大巡思想の天観・地観・人間観を通じた相関的思惟の再活性化

相関的思惟とリミナリティ

相関的思惟とリミナリティ

- 相関的思惟 (Correlative Thinking): フラクタル的 (Fractal) 静態的特性
 - 万物が相互に連結されているという関係性中心の思惟体系
 - 西洋の実体 (substance) 中心思惟とは異なり、属性 (attribute) 中心の説明
 - 天地人 (天地人) の有機的連結性と相互影響関係の強調
- リミナリティ (Liminality): カオス的 (Chaos) 動態的特性
 - 敷居、境界の意で通過儀礼における境界を通過する過程
 - 相互に対立する二つの要素をすべて包含し対立を調和させる特性
 - 陰陽の調和を追求する東洋思惟の変化と生成に焦点
- 東西思惟の差異と統合
 - 西洋: 分析的・二分法的思惟 → 主体-客体、精神-物質の分離
 - 東洋: 総合的・循環的思惟 → 天地人の相互関係性の強調
 - 相関的思惟のリミナリティを通じて東西天地人思惟の統合が可能
- 両思想の核心的方法論: 相関的思惟の再活性化
 - 東学思想: 作乱 (作亂) と胞胎 (胞胎) のリミナリティにより自生的近代性へ進入
 - 大巡思想: 治乱 (治亂) と冠旺 (冠旺) のリミナリティによる自生的近代性の再活性化

東学思想の特性

東学思想の特性

- 天使問答(天使問答)と天外天(天外天):超越的天(天)の概念導入
 - 天地人三界に相関的思惟のリミナリティを再活性化する契機
 - 西洋の人格神と東洋の理法天を統合する新たな天観(天観)を提示
- 三界観の再構成:新たな天観・地観・人間観の提示
 - 侍天主(侍天主):天を奉る人格的天観
 - 造化定(造化定):調和のとれた地の秩序の確立
 - 永世不忘(永世不忘):永遠に忘れない人間の道理
- 自生的近代性の限界:儒教の前献(前獻)を超えられない
 - 鬼神論的天地関係、気化論的(氣化論的)天人関係、王侯将相の地人関係
 - 現実変革の論理として限界を露呈し農民運動へ帰結
- リミナリティの特性:作乱(作亂)と胞胎(胞胎)
 - 作乱(作亂):既存秩序に対する抵抗と混乱のリミナリティ
 - 胞胎(胞胎):新たな時代を胎むる胎動期的特性
 - 自生的近代性進入段階としての相関的思惟の再活性化の試み

大巡思想の特性

大巡思想の特性

- 九天の人身降世:大巡思想の天界観の確立
 - 東学思想の限界を克服するための神人依導的(神人依導的)三界観の構築
 - 無極太極を樹立し理法天(理法天)と人格天の陰陽合徳を実現
- 神明と怨恨概念の導入:相關的思惟の拡張
 - 神明界を通じた天地人三界の有機的連結
 - 解冤相生報恩相生の宗教的法理の確立
- 三界観の再構成:天地人界の統合的観点
 - 人身降世の天界観、天地誠敬信の地界観、成事在人の人界観
 - 与天地同(與天地同)の原理で三界の相互交流を実現
 - 地上天国の天地関係、天地報恩の天人関係、地上神仙の地人関係の構築
- 治乱(治亂)と冠旺(官旺)の再活性化:自生的近代性の実現
 - 東学思想の作乱(作亂)と胞胎(胞胎)のリミナリティを克服
 - 天地公事と修道を通じた自生的近代性の実践的具現
 - 真東学の提示:東学思想を再活性化した長期的リミナリティの実現

二つの思想の比較分析

- 相関的思惟の再活性化過程
 - 東学思想:短期的リミナリティに偏重、再活性化への進入に寄与
 - 大巡思想:東学思想を再活性化して真東学を提示、再活性化の完成

- 天観・地観・人間観の具体的比較

区分	東学思想	大巡思想
天観(天観)	侍天主(侍天主)の天観	人身降世(人身降世)の天界観
地観(地観)	造化定(造化定)の地観	天地誠敬信(天地誠敬信)の地界観
人間観(人間観)	永世不忘(永世不忘)の人間観	成事在人(成事在人)の人界観

- 自生的近代性の具現方式の相違点
 - 東学思想:作乱(作亂)と胞胎(胞胎)のリミナリティ、儒教の典範を完全には超えず
 - 大巡思想:治乱(治亂)と冠旺(冠旺)のリミナリティ、神明と怨恨概念の導入
 - 大巡思想は陰陽合徳、三才確立、五行具備の相関的思惟により東西洋の近代性を統合

二つの思想の比較分析

研究の意義と価値

研究の意義と価値

- 西欧近代性の危機に対する代案の提示
 - 東学思想と大巡思想の自生的近代性少数言説ながらも東アジアの相関的思惟の唯一の近代性言説
 - 気候危機、核脅威など近代性の総体的危機に対応する代案的近代性の提示
 - 東西古今の天観・地観・人間観の長所を相関的思惟のリミナリティで統合
- 東アジア近代性の成長解決案の提示
 - 韓・中・日の三国のうち唯一、相関的思惟に基づく自生的近代性モデルを提供
 - 新たな成長のためのモデルとして失われた東アジア近代性の回復
 - 個人と共同体の次元で適用可能な新たな生存戦略の提示
- 比較思想的理解の増進に寄与
 - 天観・地観・人間観を中心とした比較を通じて両思想の意義と価値を容易に理解
 - 東西思想および現代科学思想との比較を通じた特性の把握
 - 学問的価値を超えた実践的適用可能性の提示

研究の限界および今後の課題

研究の限界および今後の課題

- 既存の近代性研究の受容の限界
 - 相関的思惟の天観・地観・人間観にのみ集中し、既存の近代性研究を十分に反映できず
 - 今後の課題生態学など多様な分野の近代性研究成果の反映の必要性
- 詳細な議論の不足
 - 天観・地観・人間観という広範な研究領域による細密的議論の限界
 - 今後の課題学際的研究を通じたより深度ある比較分析が必要
- 具体的事例提示の不足
 - 相関的思惟の自生的近代性が成功的に具現された具体的事例の紹介の不足
 - 今後の課題多様な適用事例と具体的研究モデルの開発をもって代案的近代性の実現方案を提示
- 今後の研究方向
 - 東学思想と大巡思想の現代的適用可能性の模索
 - 気候危機、核脅威など近代性の総体的危機に対応する代案的近代性モデルとしての実践方案研究